

令和2年度 第2回加西市総合教育会議 会議録

- 1 開会日時 令和2年10月22日(木) 15時30分
- 2 閉会日時 同日 17時15分
- 3 開催場所 加西市役所 1階多目的ホール
- 4 出席委員
市長 西村 和平
教育長 民 輪 惠
教育長職務代理者 沼澤 郁美
委員 楠 田 初美
委員 中 川 和之
委員 深 田 英世
- 5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名
ふるさと創造部長 千 石 剛
ふるさと創造部 人口増政策課長 藤 後 靖
ふるさと創造部 人口増政策課係長 岩 野 裕之
教育委員会事務局 教育部長 本 玉 義人
教育委員会事務局 次長兼教育総務課長 今 西 利夫
教育委員会事務局 次長 森 幸三
教育委員会事務局 課長(学校施設担当) 井 上 英文
教育委員会事務局 学校教育課長 安 富 重則
教育委員会事務局 こども未来課長 伊 藤 勝
教育委員会事務局 生涯学習課長 松 本 富美
教育委員会事務局 図書館長 藤 川 貴博
教育委員会事務局 総合教育センター所長 常 峰 修一
教育委員会事務局 学校教育課係長 藤 田 亮
- 6 傍聴者 一般：5名、報道機関：なし
- 7 協議事項
(1) 令和3年度予算について
(2) 加西市教職員への学校のあり方に関するアンケートについて
- 8 会議内容
別紙のとおり

会議録

次第

- 1 市長挨拶
- 2 教育長挨拶
- 3 協議事項

(1) 令和3年度予算について

〔意見・質疑〕

委員 予算のうち、特に特別支援学校のスクールバスの予算については、児童生徒に対して不便な現状となっているため、2案提示されているが、早々に着手してほしい。

市長 先般、行財政改革プランにおける今後5か年の事業実施計画のヒアリングが終わり、各課に示達を行っている。リースでの対応を含め、検討していきたいと思う。

委員 学校図書館における文部科学省が定める図書基準について、5か年計画で進めてきたが、まだ一部の学校では基準に達していないため、できる限り早く達成できるよう継続していただきたい。

事務局 昨年度まで各校へ一律配分していた予算を今年度から傾斜配分してきたが、文部科学省が定める図書基準が学級数によって変わることもあり、今年度は達成することができなかった。引き続き、計画的に事業を進めて達成率100%にしていきたい。

市長 図書の充実は非常に重要と考えている。

委員 外国語教育について、小さい頃から英語に触れていくことはとても大事だと考えており、人材の確保は重要である。また、GIGA スクール構想に関する人材についてもなかなか集まらないという状況であるが、賃金単価を上げるなど工夫していただきたい。

事務局 事業実施計画では、人材を業者委託で確保できるように計画しており、併せて地元の人材探しも引き続き実施する予定である。

委員 学校づくり応援事業における食育については地域の力がなければならないので、食育を通じて地域活性化を図ってほしい。また、食育に関する専門人材の確保や部署の整備を行ってほしい。

事務局 今年度から会計年度職員の栄養士が配置されているが、まだ1年目であり、十分に学校給食へ助言できる状況にはなっていないため、継続して献立・栄養関係に関与できるよう進めていきたい。また、以前には給食係が教育委員会に配置されていたが、数年前に廃止されたため、学校給食に対するアプローチが弱まっている。再配置できれば、合わせて給食の公会計化もすすめていきたい。

教育長 食育事業について、加西市でも随分行われてきたが、実体がないのでは、と感じる。しっかりと加西市ならではのコンセプトを決めたいうえで推進していかないといけないと思っているため、対応していける体制づくりをお願いしたい。

市長 加西市には食育推進計画があるが、実質化していくことが難しい状況になっているため、オール加西市として取り組んでいきたい。

委員 加西市には豊富な農産物があるとともに、農業改良普及センターや大学の研究センター、農業高校等、施設も県下で充実しているため、是非推進してもらいたい。

委員 以前から検討している給食の公会計については、PTAからの要望が多い。保護者や教職員の負担が減るため、是非実現してほしい。

事務局 昨年度から人員要望が通らず、実現できていない。

市長 今後の人事ヒアリングの際に検討する。保護者や教職員の負担軽減につながるよう、推進していきたい。

委員 夜遅くまで学校の電気が点いており、教職員の残業時間が依然として多いと感じる。

事務局 月あたりの残業時間を45時間以内とするルールを守るように指導している。

委員 例えば、校務をシステムなど利用して分けることはできないのか。

事務局 職員数によって、係が重複する学校もあるので、各学校で工夫しているとともに、今年度から校務のシステム化が進み、効率化されている。また、オンラインでの会議が増えているため、出張が無くなり、負担軽減につながった。

委員 学校における電話の自動応答システムはいつ導入予定か。

事務局 後日、入札を行い、随時各校に配備していく予定である。

(2) 加西市教職員への学校のあり方に関するアンケートについて

〔意見・質疑〕

委員 小中一貫校や複式学級についてのメリット・デメリットが保護者も理解できていない。我々委員についても実際の成功事例について視察等を行い、よく理解できてから検討を進めていきたい。

市長 平成23年に学校あり方検討委員会から答申があり、複式学級になることは避けるべきで、単学級についても文部科学省の基準もあり、望ましくないとされていたが、現在、小学校のみならず中学校での単学級が目前となっている。そのような状況を踏まえて、今回教職員へアンケートをとり、コメントをいただいた。教職員は日々の保護者や地域とのコミュニケーションによって得た想いを感じながら、このままでいいとは思わないとの意見を回答してくれたと思う。全体的な流れのなかで、前回の検討委員会の議論もあり、当時より切迫してきたため、長期間に渡って検討するのではなく、それなりのスピード感を持っていかないといけないと思う。重要な課題であるので、教育委員とともに想いを一緒にして取り組んでいきたい。

委員 もし、加西市として小中一貫教育を目指すなら、小中一体型の一貫校がベストではあると思うが、建設費等の問題もあり、慎重な検討が必要である。加西市では小中連携や小小連携を協力で推進されており、それを生かすことも大切である。学校は残したいが、残

しても課題は多いという地域や保護者の複雑な思いをしっかりと聞き、ともによりよい学校のあり方を考えていかなければならない。

委員 今回のアンケートによる分析結果は非常に重要なものであるが、地域の意見も大切なので、今後の進め方をよく検討し、先延ばしにならないよう進めていきたい。

市長 保護者や地域の意見を聞く際に、ある程度の案を持ちながら協議を行わないと何も無い状態で意見を聞いては前に進まないと思う。その前に、このメンバーにおいて理解度を深めていきたい。地域の人々も子ども達の成長を望んでいるため、中心施設となる学校を残していきたいと感じていると思う。

教育長 子ども達のことを第一に考えながら充分検討して市のビジョンを示し、保護者や地域との合意形成を図る必要がある。

委員 成人式などで、最近小中学校を経験した年齢層にも意見を聞いてみたい。

市長 「〇〇っ子」というような地元愛の醸成は小学校がメインとなっており、中学校になると意識が薄く、加西市への地元愛は育っていないと感じる。早い段階で地元の加西市を意識してほしい。

教育長 「加西」を意識するようになるのは、加西市を出てからではないかと思う。まず、小学校エリアで地元意識が芽生える。「加西」という概念を持つのは少し先かもしれない。

市長 一定期間の中で充分に検討していきたい。

4 その他